

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

令和四年八月度 入賞句一覽

投句数 千十六 句

特選

星野 勝 選



このすいか大きな口で一かじり

大垣市

岩田 さら(小三)

夏の果物と言えば、多くの人が頭に浮かべるすいか。甘くてみずみずしいかを、お母さんが切り分けて、テーブルに並べてくれたのでしようか。すいかは、かじりついて食べるところが醍醐味ですね。そのすいかを目の前にして、大きな口を開けて今まさにかじりつこうとする作者の姿が目には浮かぶような句です。すいかの真つ赤な色、家族の会話、すいかをかじる音、キーンと冷えて口いっぱいに広がる甘さ。どれもがその光景を思い描ける句です。

天気雨虹を見ようと期待して

大垣市

田丸 陽加(小六)

「虹」は、誰もが知っている雨上がりの自然現象ですね。夏の季語です。雨雲が通り過ぎた後、離れた場所に降る雨に、太陽の光が当たって七色の橋のように見えます。もちろん、そのことを知っている作者が、きれいな虹を期待して、外に飛び出していこうとする姿が目には浮かぶ句ですね。下五は「期待して」で終わっていて、作者は実際に虹を見ることができたのか、それとも・・・その結果が開きたくなるような、余韻を残した句になりました。

戻り梅雨傘忘れても心晴れ

中津川市

多賀 好(中三)

季語は「戻り梅雨」。まさに今年にぴつたりな季語ですね。今年のはやばやと梅雨明け宣言が出され、猛暑となりましたが、その後梅雨に逆戻りしたかのようないきなり続きました。学校の帰りでしょうか。雨が降ってきたけれど、傘を忘れた作者は一瞬悔しい気持ちになったのかもかもしれません。けれど、その日にあつたとてもいいことを思い出して、晴れやかな気持ちになつたのでしよう。むしろ雨にうたれて楽しみなながら家路につく作者の姿が目には浮かぶ句です。

秀逸

もやいぶね青葉がゆらぎ写し絵に

大垣市

山川 来望(小六)

弟とかまきり見つけおいかけ

大垣市

陸田 篤希(小四)

顔のぞく鳩にあいさつ庭若葉

中津川市

吉村 優亜(中三)

サイダーに透かして見ゆる恋の味

中津川市

三尾 綾音(中三)

蝸牛一日かけて帰宅する

加茂郡川辺町

櫻井 大也(中二)

夏の蝶いつも誰かがならぶ朝

加茂郡川辺町

藤井 俊輔(中二)

夏至夜風に吹かれ私は縁側へ

加茂郡川辺町

都築 さやか(中三)

おちるなよ線香花火にギア入れる

加茂郡川辺町

井戸 七夏瀬(中三)

あさがおはハートみたいなのはつぱだよ

大垣市

ひびの いおり(小二)

カブトムシ夜に動くよブンブンブン

大垣市

春田 鳳心郎(小三)

入選

小中学生の部

あおばかげとおくをみつめひとやすみ

大垣市

岡安 煌(小六)

木の下で夏の日ざしに手をかざす

大垣市

森下 颯介(小六)

はしの下低空ひこうのかわうかな

大垣市

薮 寛人(小六)

ばしよの葉まいてのびゆく日が照らし

大垣市

間内 柚那(小六)

夏の川かがやくこいがおどつてる

大垣市

岩崎 茉奈(小六)

ばしよの葉風にふかれて葉をひらく

大垣市

森脇 柚葉(小六)

なつの川かめと石とが同化する

大垣市

篠田 恵生(小六)

てらてらと差す夏の日差し手でかくす

大垣市

日下 琴羽(小六)

涼風が頬をかすめて吹き抜ける

中津川市

楯 心音(中一)

夏限定トマトカレーの晩餐会

中津川市

成瀬 すみれ(中三)

甲虫男の戦いここにあり

加茂郡川辺町

山口 翔大(中二)

祖母がむく梨の取り合い妹と

加茂郡川辺町

山田 海羽(中二)

すいか割り叩き割るのは女の子

加茂郡川辺町

木下 真心(中二)

かぶと虫つのいつみてもかつこいい

大垣市

つじ あおと(小二)

ミニトマトたくさんできてたべきれず

大垣市

ざお へにん(小二)

かぶとむしきのうえけんかいばつてる

大垣市

野村 和奏(小二)

かきごおりシロップ全ぶのんじやつた

大垣市

あべ あんじ(小三)

水たまりささやく青葉映し出す

大垣市

植村 美海(小六)

夏の川はつばながれておひっこし

大垣市

子安 希陽斗(小六)

ひまわりとドクターイエロー撮りたいな

愛知県名古屋市

金田 梨愛(小六)

選者吟

かき氷食む幼子の般若顔

まさる

